

学校だより

5月号

一中の桜並木

令和6年5月16日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人
助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之



開校記念日にあたって

校長 宮城 洋之

三鷹一中の開校記念日は5月13日。今年はちょうど全校朝礼の日と重なったこともあり、スライドを見ながら全校生徒とともに一中の歴史を振り返りました。

☆ ☆ ☆

一中が開校したのは1947年。今から77年前のことになります。その当時はまだ「三鷹市」ではありませんでしたので開校当時の学校名は「三鷹町立三鷹中学校」。学校ができた場所も今の下連雀ではなく、新川の第一小学校に間借りする形で開校したのだそうです。生徒数206名、4学級からのスタートでした。開校記念日の5月13日は一小の校舎で初めて中学校の授業が行われた日です。これはこの年に撮影された写真ですが、写っている先輩方のご存命であれば90代になる皆さんです。



開校当時の様子(1947年)



旧校舎の様子(1952年)

さて、一万一千坪と言われる敷地の下連雀に移ってきたのは開校翌年の1948年4月のことでした。生徒数は一気に3倍の665名12学級に増え、さらに翌年には1000人を超えます。こうして、都内で有数の大規模校としての伝統が続くこととなります。

一中が一小で開校したのと同じように、1949年には一中の敷地で三鷹高校(現、三鷹中等教育学校)が開校しています。1958年に移転するまで9年間にわたって中高隣接の環境が続き、校長が中高両方を兼務していた時期もあったそうです。この間も一中の生徒数は増え続け、1952年には生徒数2333人、45学級という、今ではちょっと想像できないほどの超大規模校となります。そこで、1953年に一中から分かれて第二中学校、第三中学校が誕生しました。本校の校名が「第一中学校」になったのもこの年でした。

☆ ☆ ☆

開校の10日前、1947年5月3日には「日本国憲法」が施行されたばかりでした。まさに、三鷹一中は戦後の新しい時代の新しい中学校としてスタートしたと言ってもよいでしょう。そんな一中生のシンボルとして1979年に植えられたのが校庭の植え込みにある「シンボルツリー」のヒマラヤ杉です。空に向かって真っすぐに伸びるヒマラヤ杉は2万6千人を超える先輩たちが築いてきた歴史を大切にしつつ、常に新たなチャレンジを続ける、そんな一中生の姿を象徴しているように思います。

現在、一中が目指している生徒の自治による主体的な活動の展開もそんなチャレンジの一つになることを期待しています。まずは間近に迫った体育大会でぜひ一中生の力を発揮しましょう。